

水を語る会

会報第19号

平成25年9月28日

水を語る会

会長 眞柄 泰基

現在の会員数 一般会員134名 団体会員5団体 協力会員4名 (平成25年6月現在)

平成24年度定例総会の報告

平成24年6月29日に「水を語る会」平成24年度定例総会が開催された。定例総会には96名の会員が参加し、平成24年度の事業報告と収支決算、及び平成25年度の事業計画、収支予算並びに役員が承認された。

総会特別講演会の報告

日時：平成25年6月29日(土)14～16時

場所：日本水道会館 会議室

講演：「ろ過砂の軌跡」

講師：日本原料株式会社 齋藤安弘社長



齋藤さんより、ろ過砂の専門メーカーとして、ろ過砂の歴史、近代水道とともに発展してきた洗浄技術について、実体験を交えて講演頂いた。

平成元年に入社してすぐに担当した鶴ヶ峰浄水場と2池の更生工事が強く胸に残り、ろ過砂洗浄装置の開発を進める切っ掛けとなったことや、シフォン式洗浄機の技術開発では、同志社大学の三輪先生の「鳴き砂」の研究が手掛かりになった開発秘話も紹介された。

平成7年に移動型水処理装置の初号機を製造したが、富吉浄水場が台風により水没したため、急遽、この装置を同浄水場へ導入したエピソードも紹介された。

その後、移動型水処理装置は、災害対策・

災害復旧用など様々な場面で導入されるようになり、今後は、小規模集落向けに利用される可能性もあると話された。

当社の水処理装置は、ラオスなどの開発途上国でも導入実績があるが、各地では通常の水処理ができないため、災害用に導入した装置が、実際には日常の給水に使われている現状もあると説明された。また現在は、開発途上国では電気がない場所も多いため、できるだけ安く水を届けられるように、技術が海外に何らかの形で役に立つようにと、電気を使わない水処理装置も現在開発中であると話された。

「たかが砂、されど砂」、砂を洗浄する技術において日本をリードする先端企業として、不断の努力により開発してきた成果とその想いを2時間の講演をとおして強く語られた。

親水道百選

秋田市水道発祥の地と藤倉記念公園。重要文化財「近代化遺産」として全国で初めて指定された水道施設を紹介した。

定例幹事会の報告

日時：平成25年9月21日(土)14時～16時

場所：日本水道会館(会議室)

議題：次回講演会の検討、HP更新について他

今年度の会員集会の予定

平成25年12月予定 講演会

編集後記

年内に「水を語る会」ホームページを更新する予定です。また、第14回定期講演会より、講演会のインターネット中継サービスも開始します。ご意見、ご感想等御座いましたら、お気軽にご連絡下さい。

<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/mizu-o-katarukai/>

以上